

# 2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

2026年2月6日



Standard Market | **5013**

# 2026年3月期 第3四半期 決算業績概要



## 2026年3月期 第3四半期 連結業績概要

- 売上高は、日本と東南アジア/インドで増収となったものの、中国合併会社を連結範囲から除外し持分法適用関連会社化※した影響により減収。
- 営業利益は、原材料価格の高止まりが一服したものの、経費及び人件費の増加に加え、中国合併会社の連結除外の影響により減益。
- 経常利益は、シンジケートローン更新に伴う手数料の計上等により減益。
- 四半期純利益は、投資有価証券売却益の計上等により増益。

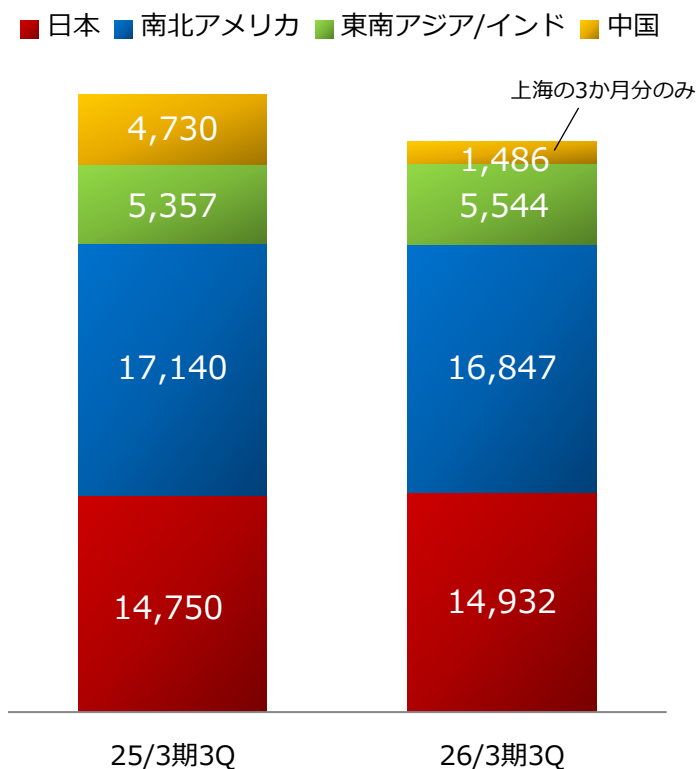
※ 中国合併会社である上海尤希路化学工業有限公司は、合併相手を引受先とする株主割当増資手続きが2025年9月29日に完了し、当社の持分比率は50%となり連結の範囲から除外され、持分法適用関連会社となった。結果、26/3期3Qの売上高及び営業利益は、同社の第1四半期分（3か月分）のみを計上。

(百万円)	25/3期3Q	26/3期3Q	前期比	
			増減額	増減率
売上高	41,978	38,809	△3,168	△7.5%
営業利益	4,060	3,827	△232	△5.7%
経常利益	5,013	4,845	△167	△3.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,802	4,519	+716	+18.8%

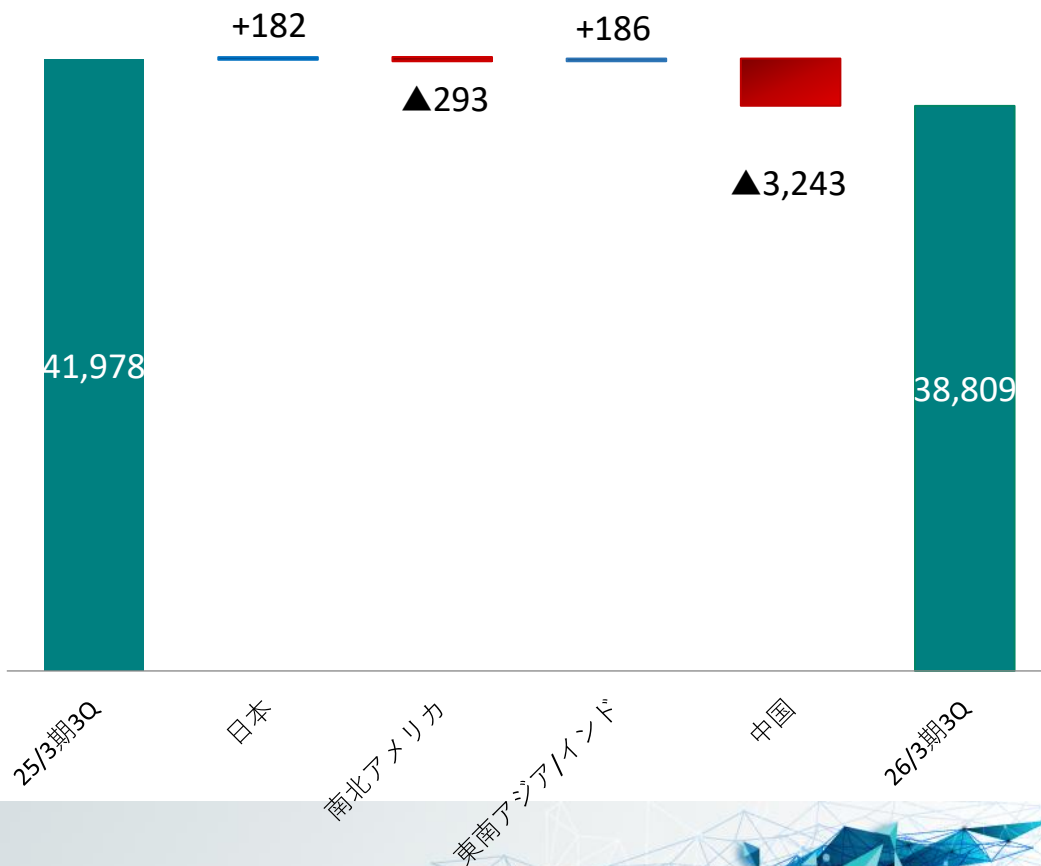
## 2026年3月期 第3四半期 セグメント別売上高

- 日本及び東南アジア/インドは増収だが、南北アメリカは減収。
- 南北アメリカは、ユシロアメリカの販売減に加え、為替がやや円高に修正されたことによる換算影響もあり全体で減収。
- 中国は、合併会社の持分法会社化により大幅に減少。
- 中国を除くセグメント合計では、ほぼ前年並み。

セグメント別売上高（百万円）



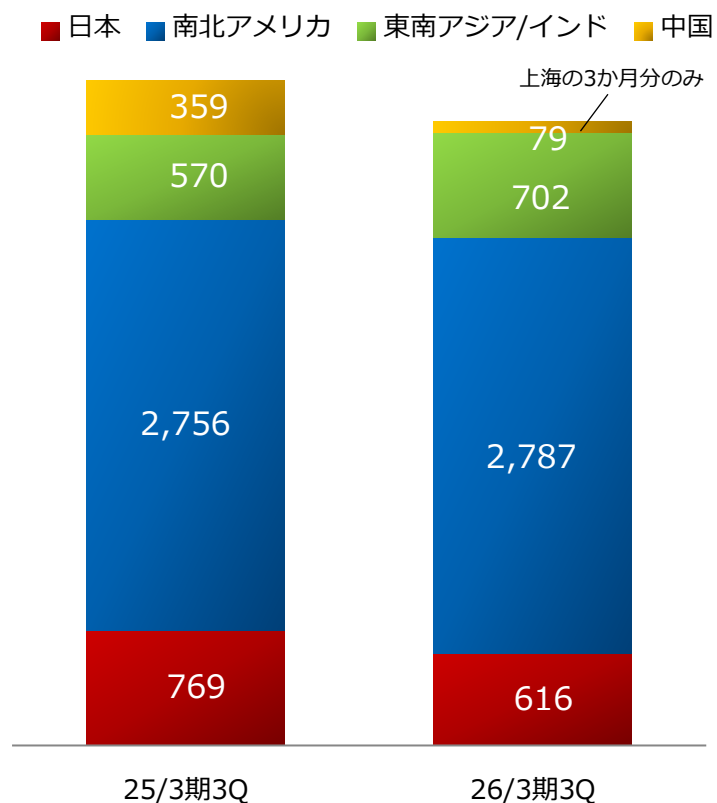
セグメント別売上高増減（百万円）



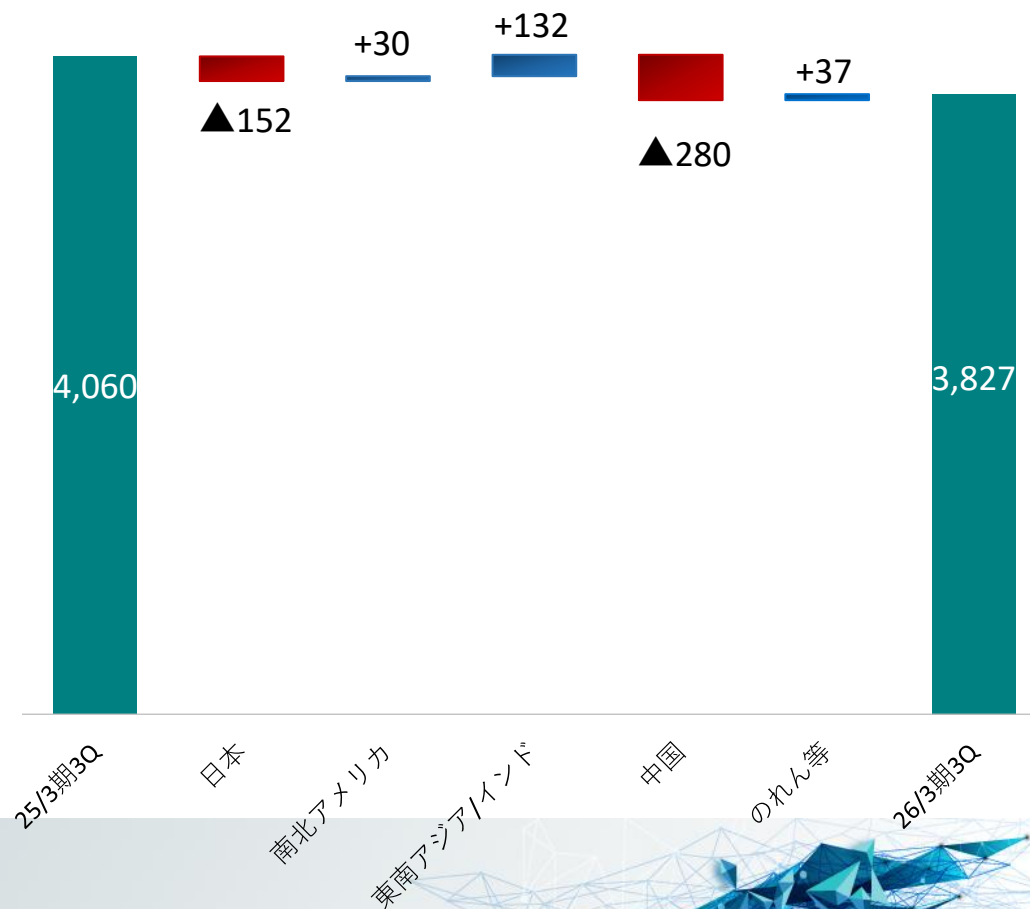
## 2026年3月期 第3四半期 セグメント別営業利益

- 南北アメリカ及び東南アジア/インドは増益だが、日本は減益。
- 南北アメリカは、為替がやや円高に修正されたことによる換算影響はあるが、クオリケムが利益を伸ばし全体で増益。
- 中国は、合併会社の持分法会社化により大幅に減少。
- 中国を除くセグメント合計では、ほぼ前年並み。

セグメント別営業利益（百万円）



セグメント別営業利益増減（百万円）



## 2026年3月期 第3四半期 拠点別売上高・営業利益増減

- 日本は、販売価格の改定・拡販に取り組むも、自動車生産の伸びは鈍く販売数量は前年を下回って推移。経費及び人件費増の影響もあり減益。
- ユシロアメリカは、期初の一時的要因として、日系自動車・部品メーカーの関税対策による在庫調整の影響もあり減収減益。
- クオリケムは、堅調な金属加工分野に加え、水処理分野でも受注が増え増収増益。
- メキシコは、販売数量は減少しているが、是正されつつあるもペソ安がなおプラス要因となり販売価格が高水準を維持し増益。
- タイは、日系自動車メーカーの生産が低調な中、販売数量の積み上げと、原料代替等の原価低減の効果もあり増収増益。
- マレーシアは、輸出の減少によりわずかに減収となったが、原価率の低下や販管費の減少により増益。
- インドは、主要顧客の生産は堅調だが、グループ向け原料・製品売上の減少や、一部製品の値下げの影響もあり減収減益。

拠点別売上高（百万円） ※個社の単純合算数値

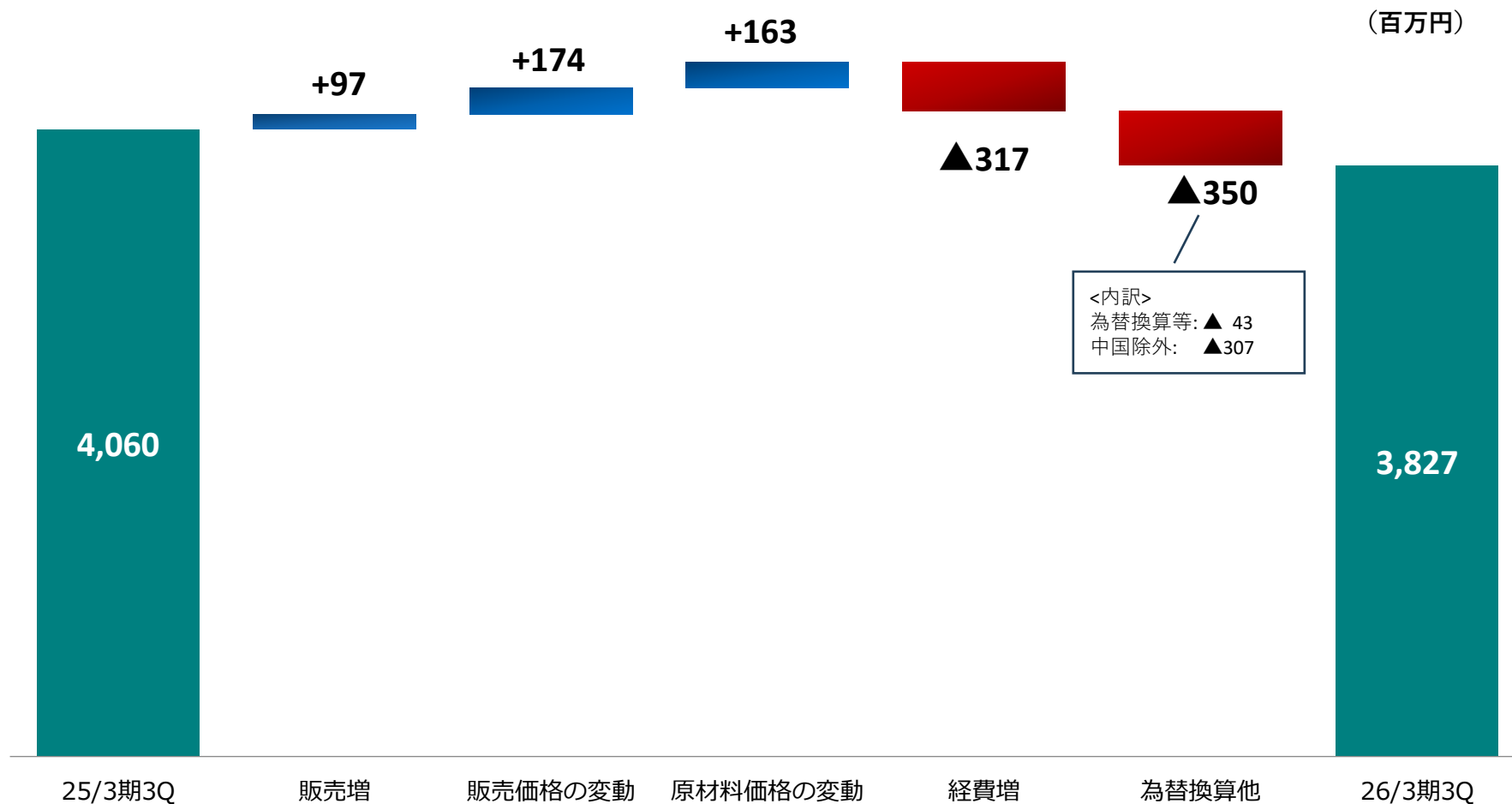
拠点		25/3期3Q	26/3期3Q	増減率
日本		16,723	16,641	△0.5%
米国	ユシロアメリカ	4,659	4,194	△10.0%
	クオリケム	8,995	9,438	+4.9%
メキシコ		2,031	1,803	△11.2%
ブラジル		1,558	1,471	△5.6%
タイ		1,832	2,225	+21.4%
マレーシア		1,349	1,346	△0.2%
インド		1,359	1,267	△6.7%
インドネシア		1,362	1,320	△3.1%

拠点別営業利益（百万円） ※個社の単純合算数値

拠点		25/3期3Q	26/3期3Q	増減率
日本		595	441	△25.9%
米国	ユシロアメリカ	746	602	△19.4%
	クオリケム	1,304	1,493	+14.5%
メキシコ		465	487	+4.7%
ブラジル		304	276	△9.4%
タイ		248	307	+23.8%
マレーシア		153	205	+33.6%
インド		80	66	△17.0%
インドネシア		177	196	+10.9%

## 2026年3月期 第3四半期 営業利益増減要因分析

- 販売価格の改定や原材料価格の低下はあるが、経費増や為替換算の影響に加え、中国合併会社の連結除外により減益。



## 2026年3月期 業績予想



## アメリカ関税政策の当社事業への影響

事業エリア	想定されるリスク	財務 影響度	見通しと対策
アメリカ	原材料費・物流費の上昇による製造コスト増加	中	原材料費は原油価格の動きを受けて落ち着きあり 物流費・人件費は上昇基調で状況により価格改訂検討
	メキシコなどアメリカ外からの輸入で対応している製品のコスト増加	低	アメリカ事業を担うアメリカユシロとクオリケムは同国内での生産がほとんど
	自動車需要の減退による自動車メーカーの生産調整・縮小	高	主要顧客の日系自動車メーカーは在庫調整しつつ、様子見の状況。正常化のタイミングは注視が必要
	インフレ進行による需要の減少	高	足元は需要の減少の動きはないが、高関税による小売価格への影響は注視必要
アメリカ以外	自動車・自動車部品の対米輸出減少を契機にした世界的な自動車の生産調整・減少	高	足元は、生産のアロケーション調整や在庫調整による対応が主で、本格的な減産の動きはないが、注視は必要
	関税回避のための生産地移管とサプライチェーン再構築	低	日本から製品を輸出しているわけではなく、原則、各地域で仕入・製造・販売を行う体制を構築済
	米中の高関税設定による中国での需要減少	低	中国では、主要顧客の日系自動車メーカーは自国内向け需要であり、アメリカ向けの生産は僅少

## 2026年3月期の主な取り組み

1	原材料価格上昇への対応	<ul style="list-style-type: none"><li>新たなコスト上昇に対する顧客との交渉による適正な価格改定の実施</li></ul>
2	金属加工油剤の販売拡大	<ul style="list-style-type: none"><li>自動車業界隣接分野（E V 含む）及び他市場への参入・販売拡大</li><li>航空機、医療、半導体などの非自動車分野に向けた高付加価値製品の販売拡大</li></ul>
3	市場開拓	<ul style="list-style-type: none"><li>CD誘導体の機能性添加剤としての販売先拡大と量産体制確立</li><li>ヒカリアクション機能を付与した防コケ・防カビ剤、機械冷却液など特色ある製品の販売拡大</li></ul>
4	ESG戦略の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>サステナビリティ推進委員会の取り組みによる全社サステナビリティ活動の推進</li><li>ESG推進項目のKPI化と目標設定</li></ul>

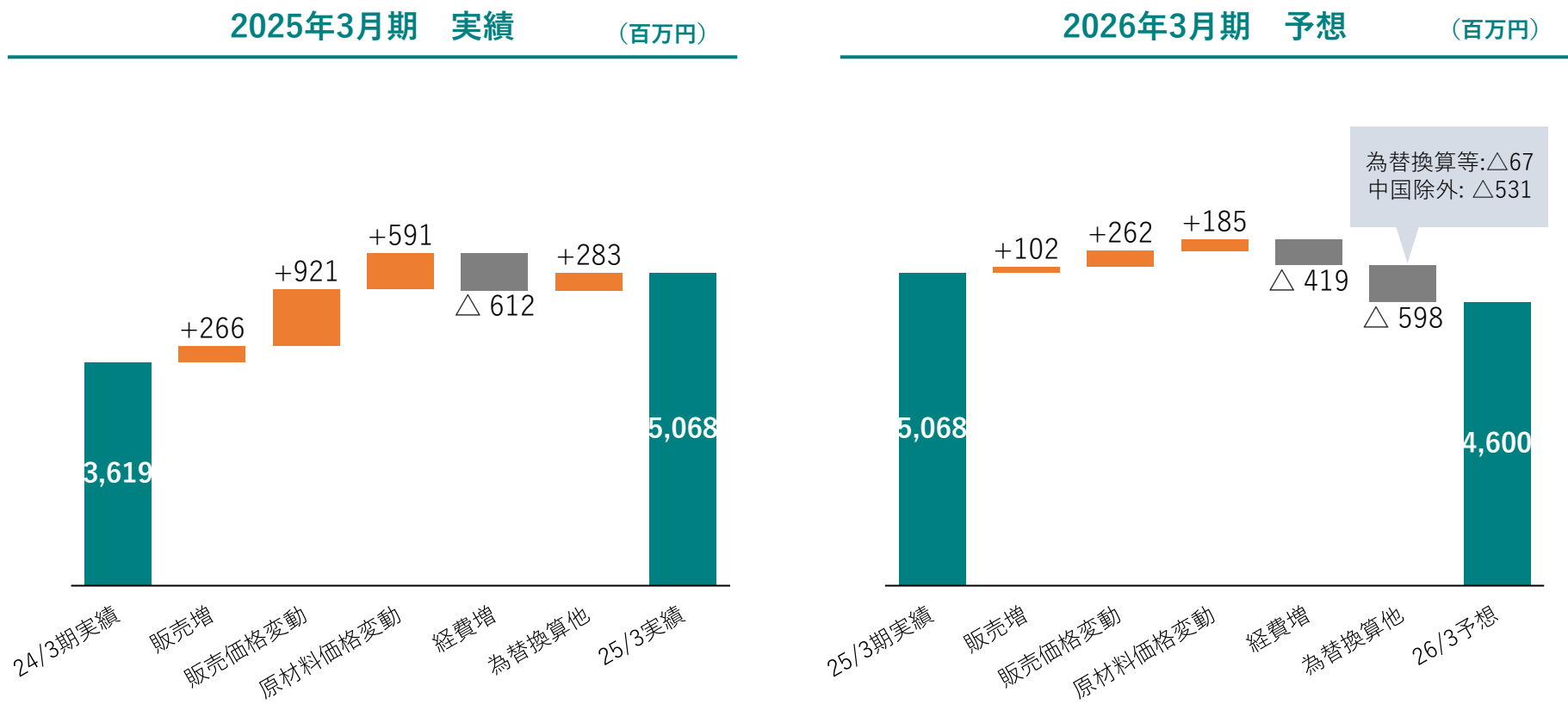
## 2026年3月期 連結業績予想

- 期初においては、米国の関税政策の影響により、自動車関連需要の減退及びコスト上昇を想定していたが、関税導入後も自動車生産は比較的堅調に推移し影響は限定的であったことに加え、コスト削減への取り組みも奏功したことから、利益面では当初計画を上回る水準を見込む。
- 一方、中国合併会社について、合併相手を引受先とする株主割当増資手続きが2025年9月29日に完了し、当社の持分比率は50%となり同社は連結の範囲から除外され、持分法適用関連会社となったため、当期の売上高及び営業利益には、同社の第1四半期分のみを計上。
- 結果、売上高については中国合併会社の連結除外の影響により前回予想を下回る見込みである一方、利益については関税リスクの低減及びコスト削減効果により前回予想を上回る見込み。

(百万円)	25/3期 実績	26/3期予想 (5/14発表)	26/3期予想 (11/11修正)	前期比		5/14発表 からの増減額
				増減額	増減率	
売 上 高	55,512	55,200	51,200	△4,312	△7.8%	△4,000
営 業 利 益	5,068	4,100	4,600	△468	△9.2%	+500
経 常 利 益	6,096	4,700	5,700	△396	△6.5%	+1,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,315	4,350	4,900	+585	+13.6%	+550
R O E	10.3%	10.0%	10.9%	—	—	
為 替 レ ー ト	151¥/\$	145¥/\$	148¥/\$	—	—	

# 連結営業利益増減要因分析

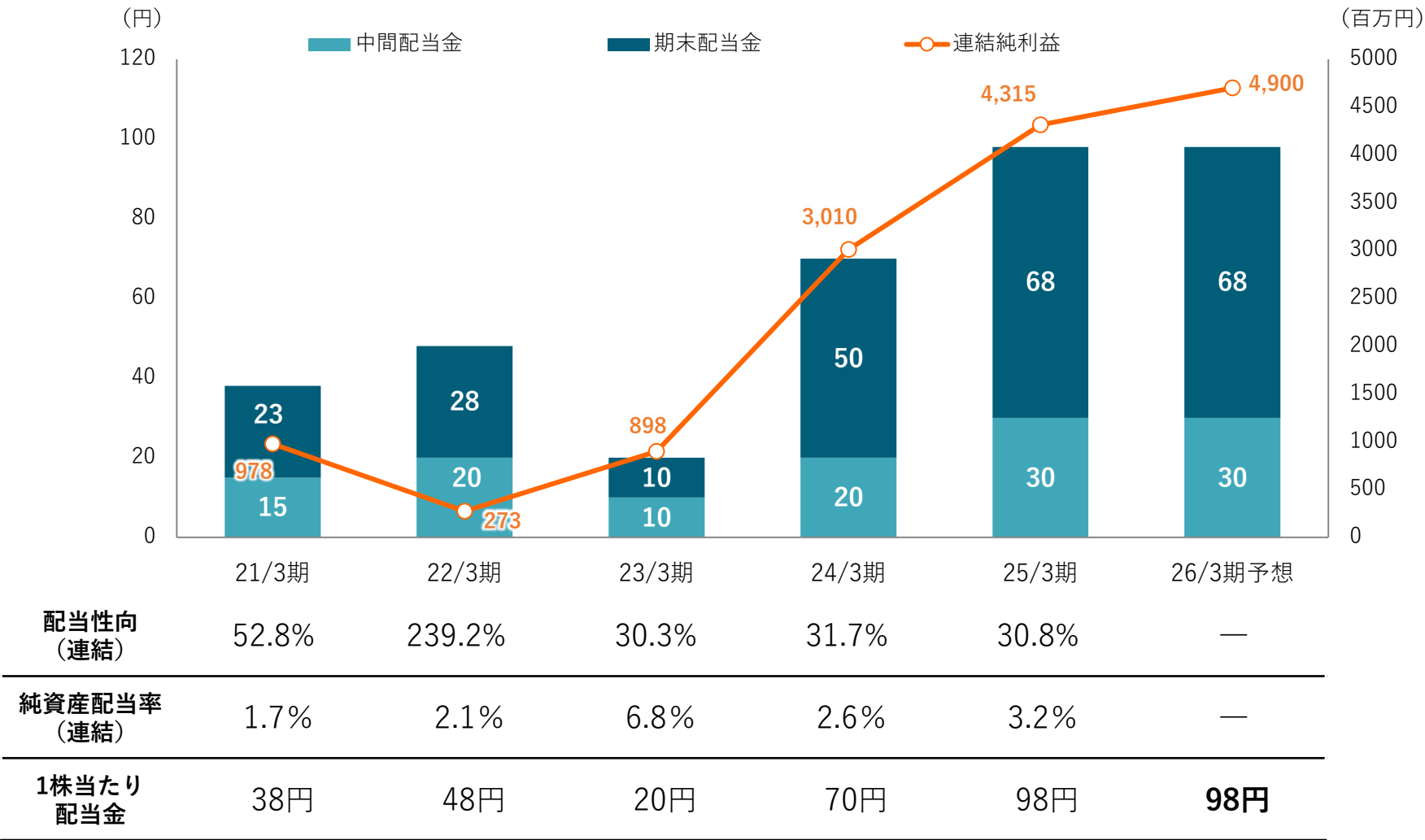
- 25/3期は販売価格の見直しに加え、原材料費の抑制に取り組み増益。
- 26/3期は拡販や価格改定に努めるが、コスト増に加え、中国合併会社の連結除外の影響で減益を見込む。





# 株主還元

- 連結配当性向を30%以上とし、投資とのバランスを考慮の上、安定的な配当を目指す。



## 財務・投資戦略

- 成長・維持および更新に対する投資や、株主還元および財務体質の強化に充当。
- 初年度は計画の3割弱を実行。

132億円

投資	● 原料一括購入による原価低減のための物流倉庫の増築	15億円
	● 生産性向上のためのIT投資	10億円
	● 国内設備 維持・更新投資（減価償却費並）	12億円
	● 海外設備 維持・更新投資	25億円
	● 戦略案件投資	20億円
株主還元	● 配当（連結配当性向30%以上） ● 自己株式の取得	50億円
財務体質強化施策	● 借入返済等	

### 投資実績（25.3期）

- 敷地造成/舗装
  - 新ERP/営業DX導入準備
  - 生産設備の合理化投資
  - 研究開発機能の充実・強化投資
  - 米QualiChemの生産能力拡張のための投資計画を開始
  - 中間配当：30円
  - 期末配当：68円
  - 自社株買い：2億円
  - 約定返済
- 進捗率：27%

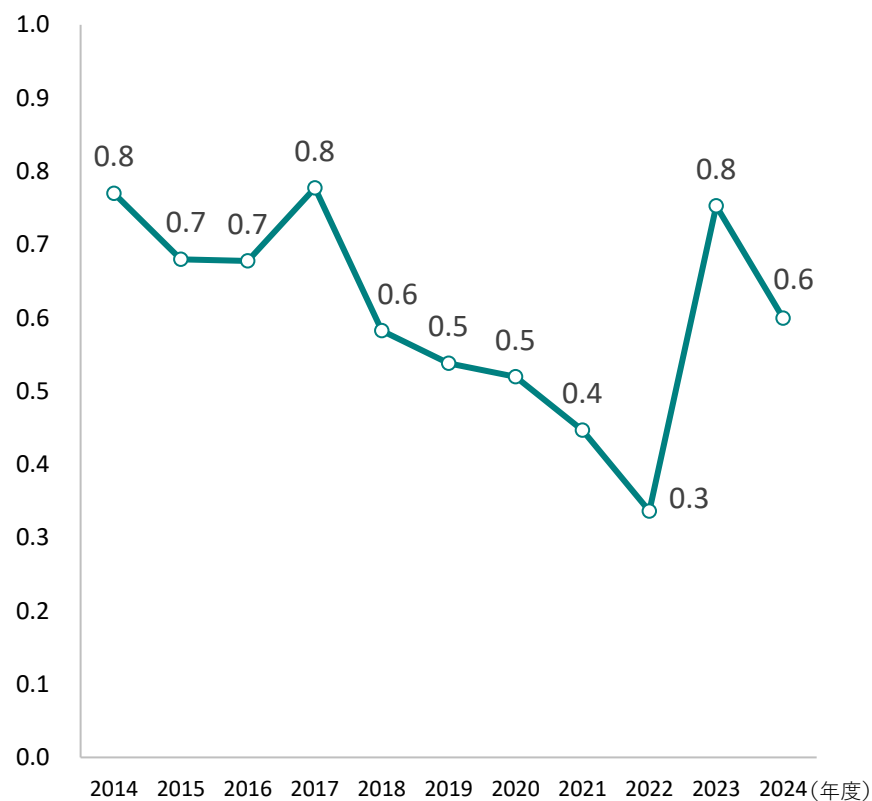
### 計画変更点

- CD誘導体新プラント建設は外部リソース活用に戦略転換
- 戦略案件投資に機動的な対応をするために追加新設

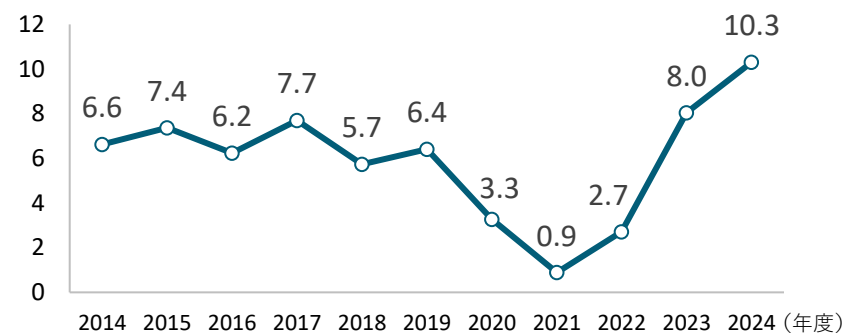
## PBR改善に向けた取り組み（現状分析）

- PBR1倍割れの状況が継続しており、資本コスト(WACC)を上回るROE水準を安定的に維持できていないことが要因であると認識。

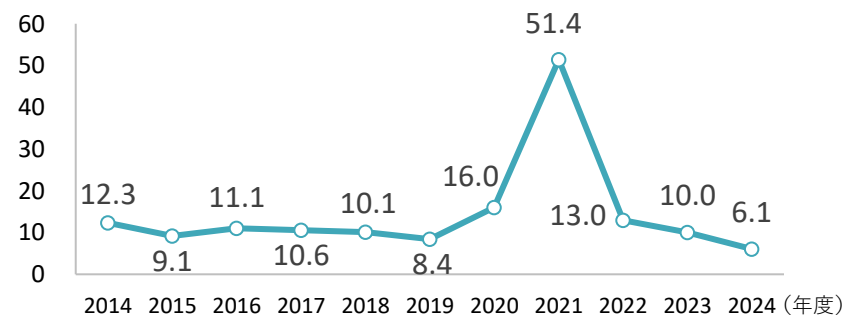
PBR (倍)



ROE (%)

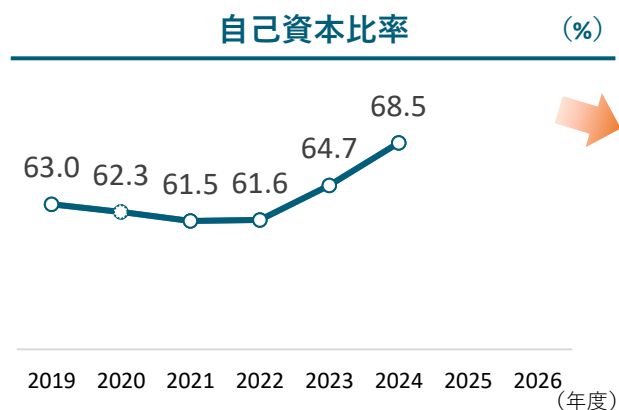
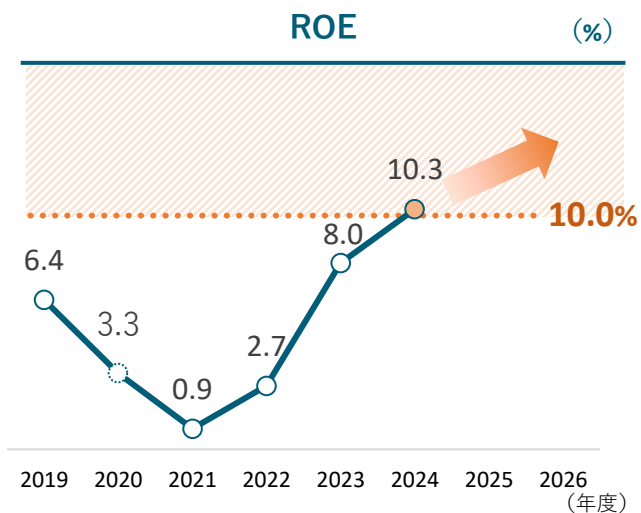
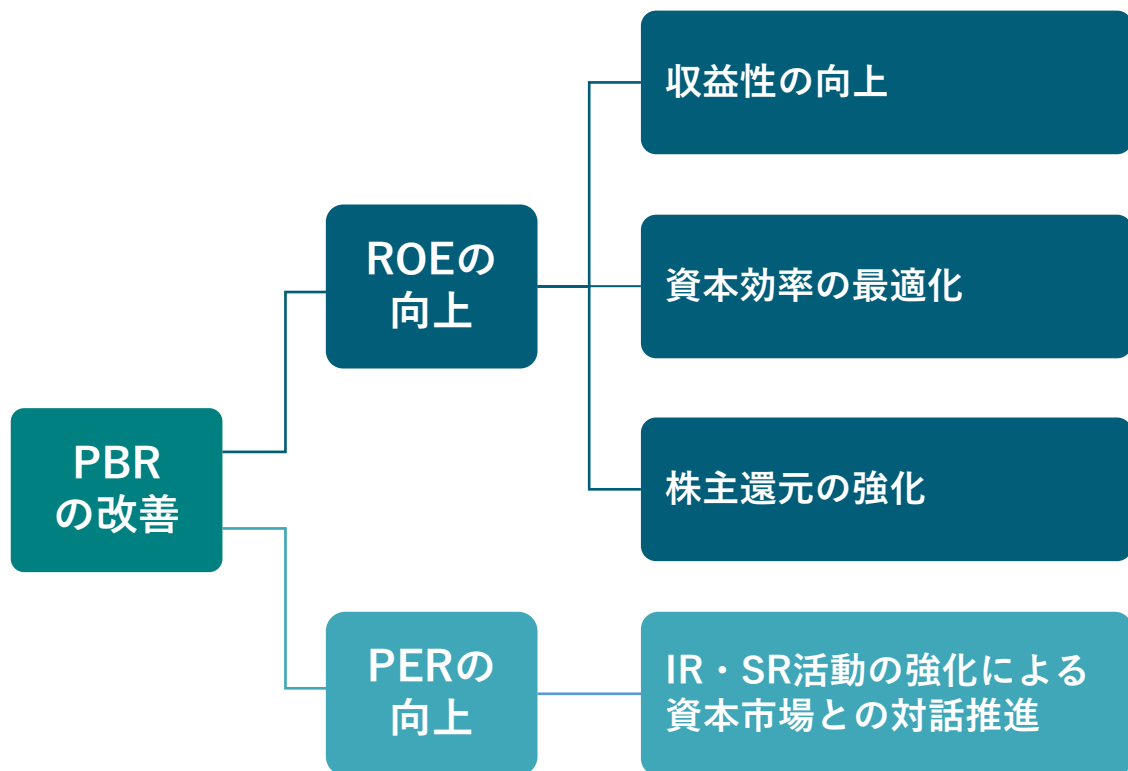


PER (倍)



## PBR改善に向けた取り組み

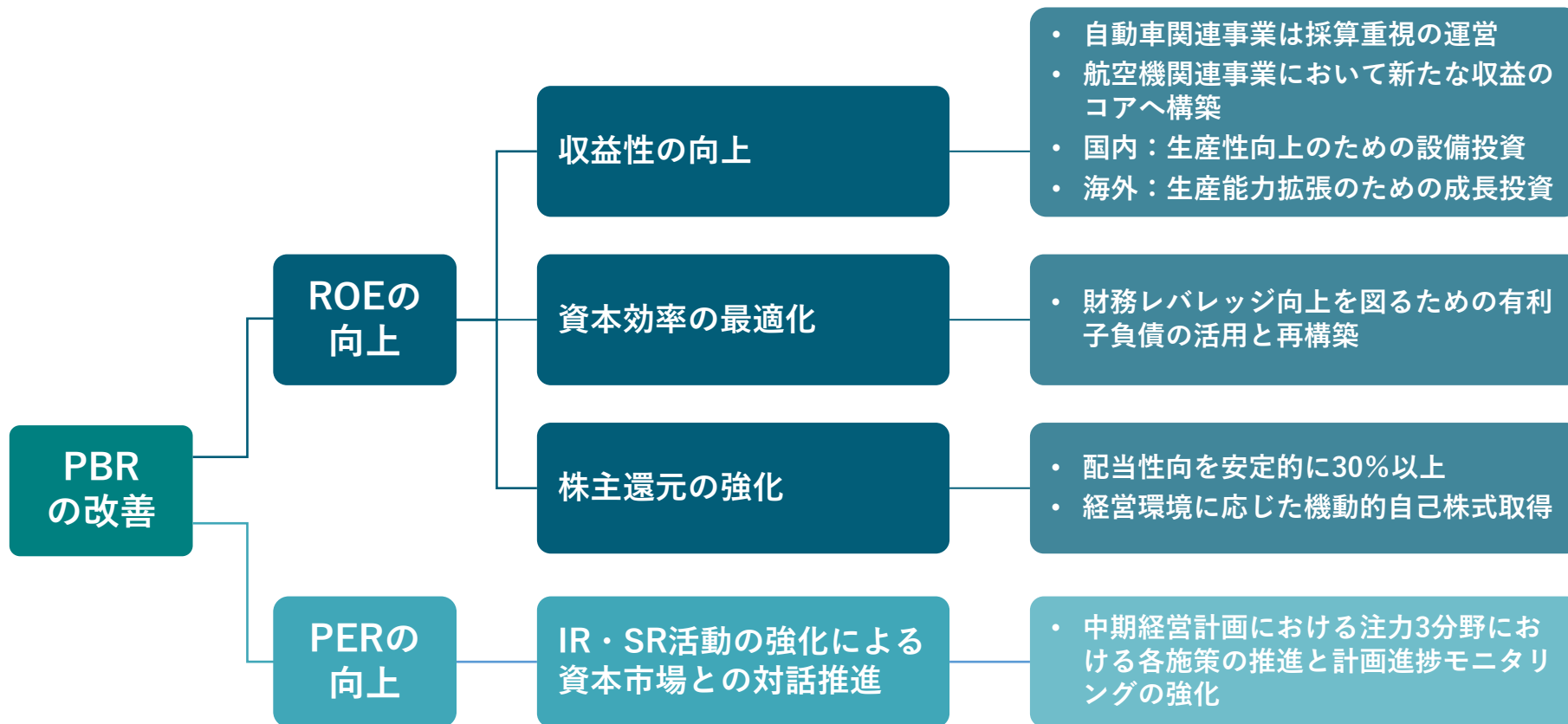
- 中期経営計画の着実な推進により経営目標の達成を目指すとともに、ROEとPERの向上を重要課題として各種施策に取り組む。





## PBR改善に向けた取り組み

- 中期経営計画の着実な推進により経営目標の達成を目指すとともに、ROEとPERの向上に資する課題への対処を強力に進める。



- ROEは安定的に10%以上の確保を目指す
- 同時にROEがWACCを上回るエクイティスプレッド拡大の取組の推進

## 当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシロの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシロの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しのみにも全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ①ユシログループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ②世界の原油価格動向
- ③米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④偶発事象                      等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシロをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。

